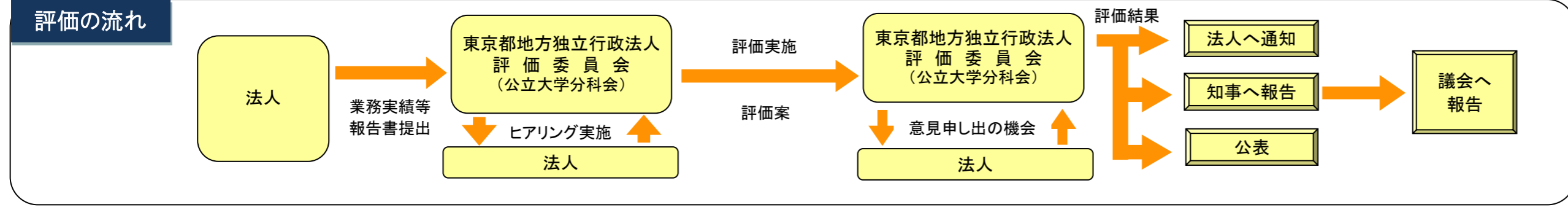


I 評価方法

公立大学法人首都大学東京（以下「法人」という。）から東京都地方独立行政法人評価委員会（以下「本委員会」という。）に提出された業務実績等報告書及び法人に対するヒアリングにより、本委員会としての評価を行う（地方独立行政法人法第78条第2項の規定に基づく年度評価を「公立大学法人首都大学東京の業務実績評価方針及び評価方法」により実施。）。



評価の実施方法

- ①項目別評価
年度計画の大項目ごとに事業の進捗・成果を5段階（1～5）で評価
特筆すべき点には、コメントを付す
- ②全体評価
項目別評価結果を踏まえ、中期計画達成に向けた進捗状況全体について記述式で評価

II 評価結果

1 項目別評価

(1) 評価結果

段階	評定 評語	30年度 項目数	(項目数内訳)			
			首都大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している					
2	年度計画を上回って実施している					
3	年度計画を順調に実施している					
4	十分に実施できていない					
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である					
項目数		35	11	9	9	6

(参考) 平成29年度

段階	評定 評語	29年度 項目数	(項目数内訳)			
			首都大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	2	1	0	1	0
2	年度計画を上回って実施している	11	3	5	3	0
3	年度計画を順調に実施している	21	7	4	5	5
4	十分に実施できていない	1	0	0	0	1
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0	0	0	0
項目数		35	11	9	9	6

(2) 評価項目

首都大学東京(11項目)	評定	産業技術大学院大学(9項目)	評定	都立産業技術高等専門学校(9項目)	評定
教育関連		教育関連		教育関連	
①教育内容及び教育の成果等		①教育内容及び教育の成果等		①教育内容及び教育の成果等	
②教育の実施体制等 (教育改革を推進する取組の強化)		②教育の実施体制等 (産業界や他大学等との連携等)		②教育の実施体制等 (教育システムの継続的な改善等)	
③教育の実施体制等 (学修支援環境・教育の質の改善)		③教育の実施体制等 (教育の評価・改善)		③教育の実施体制等 (教育の質の評価・改善)	
④学生への支援		④学生への支援		④学生への支援	
⑤入学者選抜		⑤入学者選抜		⑤入学者選抜	
研究関連		研究関連		研究関連	
⑥研究水準及び研究の成果等		⑥研究		⑥研究	
⑦研究実施体制等		社会貢献関連		社会貢献関連	
社会貢献関連		⑦都政との連携		⑦都政との連携	
⑧都政との連携		⑧社会貢献等		⑧社会貢献等	
⑨社会貢献等		グローバル化関連		グローバル化関連	
グローバル化関連		⑨グローバル化		⑨グローバル化	
⑩教育の国際通用性等		法人の業務運営等(6項目)	評定	自己点検・評価及び情報の提供	評定
⑪海外の大学等との連携		業務運営		⑤自己点検・評価及び情報の提供	
		①組織運営の改善		その他業務運営	
		②教育研究組織の見直し等		⑥その他業務運営	
		③事務の効率化・合理化等			
		財務内容			
		④財務内容の改善			

2 全体評価

(1) 総評

第三期中期目標期間の2年目として、中期計画に基づいた年度計画を順調に実施

主な取組	主な評価コメント
《首都大学東京》 ○教育研究組織再編前後のカリキュラムを着実に実施するとともに、大学院分野横断プログラムを創設 ○教育IRの掲載データを拡充。各運営委員会や部局の施策の検討などに利用 ○研究センター等で分野横断的・学際的なプロジェクトを推進 ○TMUプレミアム・カレッジの開講準備を進め、入学選考では多くの応募を得た	○新カリキュラムに加え、再編前のカリキュラムも着実に実施していることを評価。大学院分野横断プログラムは今後の発展が期待できる ○教育改善・改革の取組に利用され、活性化に役立っている ○国際的な研究が予想以上に進展。被引用論文割合やセンター等の外部資金獲得額も目標以上の実績 ○生涯を通じて学ぶというスタイルを社会に発信し、人生100年時代の学びのあり方を牽引する取組として期待
《産業技術大学院大学》 ○AIITシニアスタートアッププログラムを開設し、26名の修了生を輩出 ○アジア・アフリカ等地域の大学との連携を深め、産技大PBL教育を国外に発信	○シニア世代を対象としたリカレント教育の場を構築したことを評価 ○グローバルPBLの充実等の取組により、グローバル化を進めている
《都立産業技術高等専門学校》 ○「情報セキュリティプログラム」と「航空技術者育成プログラム」を着実に実施 ○学生の課外活動を支援し、未来工房等の応募者数が拡大	○社会の人材ニーズを踏まえた新たな職業プログラムを着実に実施している ○課外活動も学生の主体的な学びの大切な場となるとともに、多くの賞の受賞は対外的なPRになっている
《法人の業務運営》 ○法人を取り巻く情勢や都の「見える化改革」の分析結果を踏まえ、大学・法人の名称変更を決定 ○2大学1高専は、各校の特色を活かしつつバランスよく教育、研究、社会貢献活動を精力的に実施	○広報戦略の充実とともに、各種の取組等が着実に推進されることを期待 ○トップマネジメントを強化しつつ、各校の意向に沿った柔軟な対応ができる配慮がされている点を評価

(2) 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望など

- 性質、特色の異なる三つの高等教育機関を一つの法人が運営している利点を活かし、各校の連携・協力が一層深まり、効率的・効果的な事業展開が図られることを期待。
- 引き続き、中期計画の達成やより充実した取組の推進が期待されるとともに、東京都の教育研究機関として、都をはじめとする自治体や都内の企業を支える機能が発揮されることを望む。